

■日本で作った漢字

日本で使はれてゐる漢字は日本語を表すために、日本人が改造したものであるから、皆、日本で作った漢字である、と言ってもをかしくはない。しかし、今、ここで言はうとしてゐるのは、「日本で作り、日本だけで使はれてゐる漢字」で、中国には無い漢字の事である。

一般には“国字”と呼んで、中国で作られた“漢字”と区別してゐるけれども、私は、“国字”といふ言葉は、「日本の文字」といふ意味に使ふものだと思つてゐる。つまり、漢字とかなの総称である。

例へば、“きん鱻”は中国で作られた漢字だが、“このしろ鯨”は日本で作られた文字である。だからと言って“きん鱻”を漢字だと言ひ、“このしろ鯨”は国字だと言って、両者を区別することにどれだけの意味があるだらうか。私は意味が無いと思ふ。

だから、私は、漢字らしい形をした文字は、どこの誰が作らうと“漢字”と呼びたい。さうでないと、“漢字”といふ言葉がうっかり使へなくなつてしまふ。その証拠に、次の文字は中国産か、日本産か、当てて頂きたい。

①こひ鯉 ②きげ鯖 ③たら鱈 ④ぶり鰯 ⑤あんかう鮫 ⑥はたはた鱈 ⑦どげう鱈 ⑧ます鱈 ⑨しづら鱈 ⑩なみ鱈

中国産は①②④⑦⑩、あとは日本産の漢字である。全部を中国産としても、全部を日本産としても五つは正答になる訳だが、五つ位しか正答が得られなかつたのではないだらうか。

ただし、“鮫鱈”の“鮫”は中国産で、日本の山椒魚の事を表した字であるが、日本の“あんかう”といふ魚を表すのに、この字を仮借的に借り、これに“鱈”といふ字を作つて“鮫鱈”としたものである。これは、今は中国が逆に輸入して使つてゐる。

かういふ訳であるから、ここに敢て、日本人が作った漢字を挙げる必要はないのであるが、日本人が作った漢字には、いかにも日本語の味はひ豊かなものが多いので、それを一つ二つ取り挙げたい。

“峠”。一見して“たうげ”と解る字である。山道を上りつめて、これから下りになる境目が“たうげ”である。これをこれ程見事に表現した字は、何万字といふ漢字の中にも見当らない。

“辻”。道が十字形になつてゐる所を、国語では“つじ”と言ふ。今は“十字路”とか“交差点”とか、三字でこれを表してゐるけれども、表現力は一字の“辻”に及ばない。

“俵”。“くるま”と読む事は“車”と同じだが、これは「人が引く“人力車”の事である。今、タクシーを呼ぶのに「車を呼ぶ」といふが、そのや

日本語の再発見

うに使ったものである。今は、これをタクシーの意味に使ふとよいと思ふ。

“働”。意外な事だが、この字は日本で作られた字である。漢字には、日本語の“はたらく”といふ言葉にぴったりの字が無かったので、その意味に最も近い“動”といふ字に“人”といふ字を加へて作ったものである。

この字が作られると、直に、中国に逆輸入され、中国でも使はれるやうになった。この事は、日本人がどんなに“働く”といふ事に対する意識が強かったか、といふ事を物語つてゐるやうに思へて面白い。

これを、アナトール・フランス流に表現したら、「日本語の“働く”といふ言葉は、よその国の“働く”といふ言葉とは違ひます。だから、翻訳が出来ません。だって、どこの国の人も日本人のやうには働きませんもの」といふ事にならう。